

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503916		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホームきよたⅡ		
所在地	札幌市清田区清田4条2丁目10-27		
自己評価作成日	令和元年8月22日	評価結果市町村受理日	令和元年9月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170503916-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1) 町内会での活動、清掃活動、花壇管理や、月1回の老人会、子育てサロンへの参加しています。 2) 外出レク、個別のレクは定期的に行なっており、郷土資料館、喫茶店、買い物レクなど支援しています。 3) 運営母体の鈴木内科医院とは棟続きになっており、すぐにいききが出来ようになっています。 4) また重度化、ターミナル期にも対応でき、院長、訪問看護と連携を密にし、看取りの実績も多く積んでいます。 5) 法人研修、ホーム内研修、外部研修等法人より積極的に受けるよう話があり、職員の技術、考えの向上に力を入れています。 6) 職員は介護福祉士保持者も多く法人からも資格取得に補助もあり今後も意欲的に取り組んでいきます。また法人全体でフランス発祥のユマニチュードを推奨しており、新人職員にはしっかりと引き継ぎを行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) ホームの環境・介護設備・機能 ; 閑静な住宅街にあつて、交通至便等生活環境に恵まれている。介護施設・設備は機能的に配置され利便性も良い。経営母体医院との多用で専門的な人的資源の連携で質の高い有機的運営をしている。
2) 職員の介護姿勢 ; 職員は介護の本質的理解と資質の向上に努め、利用者本位な介護支援に専念している。
3) 家族等の好感度 ; 利用者・家族の意向に沿った心身の状態・希望等を受け止めて、優しく、丁寧な対応や密度のある相談・報告・連絡で好感を得ている。
4) 運営推進会議開催状況 ; 定例に開催し、運営状況の実態、行事・研修等の関係資料を開示して家族・地域機関・組織の参会者に意見等を運営に反映している。
5) 地域機関・組織との連携 ; 町内会の一員として地域組織・機関と連携して、子育てサロンや老人会等との温かな交流を図っている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	町内会、ボランティア活動等、などの交流を積極的に取り入れたケアプランを作成している。	医療法人の経営理念であるLove and Care;愛のある1)医療と介護、2)経営、3)運営を基本に、利用者の尊厳、認知症に伴う障害の緩和、家族への支援を業務理念として、職員は相互に共有し家族の協力を得て介護の実践に専念している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の老人会の定例会への参加、子育てサロンでの触れ合い、秋の展示会への出品、避難訓練の協力依頼など交流を行っています。	町内会をはじめ、定例老人会や子育てサロンの温かな受け入れ態勢に恵まれたふれあいがあり、地域組織・機関の連携・協力を大切にした運営に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清田区管理者会で毎年行っている、SOSネットワーク検索訓練を昨年は、当町内会で実施、認知症の理解を深めて貰っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会町、老人会会長、地域包括支援センター、ご家族の方々に参加してもらい日々の様子、活動等を報告、意見をもらいそれらを反映させ、サービスの向上に努めている。	会議は定例に開催し、介護状況や行事・職員研修、防災対応、家族に周知すべきこと等を資料で説明し、会議参加者の意向や指導を得て、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を取り、新しい加算や、加算の変更などの際はアドバイスをもらい、より良いホーム運営に協力してもらっている。	行政窓口担当者を通じ、定例業務報告に関連して、運営上の新規加算や変更等につき協議を進めるなど、運営に関する指針を得て、適切なホーム作りとなるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議、運営推進会議などの議題として身体拘束を毎年上げ職員で知識の共有を行いましたまた新人職員には身体拘束のしないケアの講義も行っている。	サービス基準等は職員の基礎的研修として共有し、定例会議では日常の介護事例で協議題とするほか、業務理念に立って、その人らしい尊厳ある支援となるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、外部研修等で高齢者虐待防止法等について学んだ事をホーム内にて伝達講習会を必ず行い、知識の共有をしホーム内で虐待にあたるものがないよう注意を払い、防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見制度を使用している入居者様についてどのようなものなのかの理解を行い、またそれらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会積極的に設けている、またそれらを運営に反映させている。	家族の訪問頻度は高く、日常の介護状況報告や意向・意見を交わして、理解や安心を得るよう努めている。また運営推進会議の参加やおたより等の連絡で周知を図るなど、相互の信頼ある関係づくりを大切にしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を常に設け、反映させるようにしている。	定例の会議は業務上の実践と課題を相互の協議できる場として活かしている。また、代表者や管理者も個々の職員との意見・意向を活かす場を持って、職員を支える運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的な面談を行い、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、積極的に法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者、他部門と交流する機会を研修等で作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、これからここでどう過ごしていきたいかを聞いたり生活状況を見させてもらい、本人が困っていること、不安なこと、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等を聞きながら、ケアプランに生かすなど、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」に必要な支援を希望の言葉やご本人の様子から見極め、一番必要な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で行える事はしていただき、役割をもって生活していただき、入居者様がお互いに良い関係を築けるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡を取り、ご家族の立場から手伝って頂ける所は、手伝ってもらい本人を支える関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や昔の友人などと一緒に過ごす時間を大切にもらい馴染みの関係が継続出来る様に支援しています。	家族の訪問頻度が高いことと共に、地域の定例の老人会や子育てサロンとの交流ともあり、ホームでの生活後の新たな馴染みの交流・関係づくりに努めた支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格、関係性を把握し、食事の席などに配慮して、楽しめる時間を作るよう支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援を行う体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中や意向から、ご本人の希望を取り入れたケアプランを作成している。	入所以来のアセスメントを基礎に、日常の動作や習慣や入所経験の長い人など、それぞれの意向の把握に努め、介護計画に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から、これまでの生活歴などお聞きしたり、必要であればセンター方式など利用して把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の状態を把握し、記録や申し送りでスタッフ間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が中心になりその方の課題とケアを話し合ったりご本人、ご家族、ご本人の意向も取り入れてケアプラン作成を作成する。	日頃から各職位の実践過程で捉えた記録や協議を基に、職員すべてが介護計画作成に関わり、本人・家族の意向を汲みとる計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム会議や日々のミーティングで入居者様の日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を話し合い、個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしい暮らしを続けるために、ホーム内のサービスに限らず、地域の活動に参加するなど多様なサービスを提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方にあつた地域資源(老人会の定例会、子育てサロン、町内会の展覧会)にの参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の理事長の院長の訪問診療を月2回受け常に健康状態を把握し、必要であれば訪問看護、院長の往診をうけている。	入所者の多くは、当医療法人の医療に関わった経緯もある。月2回、院長による往診で心身の健康状態の維持に努めるほか、必要に応じた個々の医療支援にあたっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を実施しているため、職員は少しの気づきや変化を訪問看護師に報告、相談し、入居者様が適切な受診や看護をうけられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談を密に行っている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを鈴木内科協力医療機関として行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から院長より本人・家族等と話し合いを行い、ホームですることを十分に説明しながら方針を共有し、また法人内でチーム的な支援に取り組んでいる	重度化した場合の看取り指針を交わして、家族・本人との共有の下に支援している。指針は支援の場、理念、支援内容、家族の意向等を踏まえた介護計画の基本を詳述して、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。ノロウイルス、喉つまり時の対応など。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。地域の方には積極的に訓練にも参加してもらっています。	昨年同時期の震災経験を活かし、運営推進会議の議題とするなど防災機関・地域組織の協力関係の強化に努めている。日常の設備・機器の点検、備蓄等に留意して対応に努めている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム会議等でケアの話し合いを行い、一人一人別々のケアの仕方の共有を行い、排泄等の声掛けは他の方がいないところでの声掛けを徹底している。	職員は業務理念を共有して、利用者一人ひとりの生活や心身の状況に添って、その意向や望みを受け止め、個々の誇りを損なうことのない言葉や態度で介護に臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの考え方で生活できるようにと職員意識を共有して、過剰な関わり、介助は行わないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日体調や、気持ちを優先し、ペースを優先し、日々の日課も無理なくすることなく対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝鏡を見て整容を支援し、女性には女性職員がお化粧を手伝うなどの支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には口腔体操を行い、行える方には、食前の準備を意識してもらい、食事の盛り付け準備も手伝ってもらっている。下膳もできる方には行ってもらっています。	個々の嗜好や心身の状況に応じた食事の準備に心がけ、食前の口腔体操にも留意した安全な食事を、また準備のお手伝いなどの協力を得て、楽しい食卓となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、記録をとり水分量、食事量が足りているのかを、チェックし足りていないのであれば声をかけさせてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を各入居者で依頼し、口腔内のトラブルを防いでいます。衛生士からアドバイスをもらい足りないところは介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄のパターンを把握、共有してオムツ、パッドの使用を控えてトイレでの自立排泄の介助を目指して支援している。	個々の排泄の自立支援をモットーにして、排泄パターンや心身の状況、適する用品の使用等に留意し、家族の協力も得ながら支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録も行い、できていない方には飲食物の工夫、運動の工夫を行い排便を促している。また訪問診療、医療連携等で相談し便秘の管理を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に合わせて、シャワー浴等にするなどを行い、ホームの都合は優先せず行っています。	個々の希望や心身の状況等を踏まえて、入浴時間や入浴方法を考慮した利用者本位な楽しめる入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて、昼食後に静養してもらったりしてもらっています。また安眠できるよう、明るさ、室温なども考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解をできるように確認し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人、ご家族の希望を把握し、個別外出する日程を組み、職員が付き添う際は楽しんでもらうように支援している。	定例の老人会や子育てサロンとの交わりなどの地域交流の機会を整えるほか、個々の状況に応じた閑静な住宅街での散歩等、気軽な外出の機会を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は難しい方々が多いためホーム内金庫で管理し、買い物の際など支払いが可能な方には職員が見守り支払いを行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望際にはご家族、友人にホームの電話、またご本人の携帯電話からかけていただいています。また手紙が来た際には、返信を職員が支援し書いていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮しています。また生活感や季節感を感じる、壁飾りなどを作成して飾るなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室と職員の配置と共に、介護機能設備の利便性等に留意して、共用部門の温・湿管理、採光に配慮した施設・設備の管理が行き届いている。また、行事の模様や季節に応じた壁飾りなど居心地良い環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じてテーブルや椅子の配置を検討して配置させてもらい、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを持って来ていただきそれらを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は、本人の生活が平安で楽しくなるよう、家族にも協力を得て、写真、装飾品や馴染みの家具などが配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は廊下、トイレ、浴室などに手すり設置し、自立で歩行できるようになっており、また、トイレ、各居室には目印をつけさせてもらいご自分で移動できるように配慮し、自立した生活が送れるように工夫している		